

Centimetres

KODAK Color Control Patches

© The Tiffen Company, 2000

Kodak
LICENSED PRODUCT

3/Color Black

White

Magenta

Red

Yellow

Green

Cyan

Blue

繪本
懲瘡軍談

四

13

1412

4

0

1

2

3

4

5

6

7

8

9

10

1

2

3

4

5

6

7

8

9

20

1

2

3

特 13
門 1412
第 4

徽瘡軍談卷の第四



延壽丸
効散
定計
討敵

伯州李船越敬祐著

其次助八といふ人新國の上攻結毒がみ結毒難治下瘡
早成がみ痛癢下瘡の両賊將入こと瘡蓋山鼻深山を
攻後一陣と進めて國中に向ふ山勢次第は陥落し下
逃して氣血はも筋肉枯瘦は又眼門にも腐爛瘡瘡
の陣と張る小瘡は下知して進まると外暴させ頭悩の間は
往來一圓と他を標と吹と種とあるせば其様頭門耳門
小瘡は去脈揺動して裂るがぶとく瘡氏の瘡と國主の若

と畢し汝等が所を道理の時、王も加勢をきん
金一、清國の進進よりて延壽丸が勇将とてやぶ
中、力て以て戦人とせば、必死勝敗のあぐり、仍て今汝等
小一術と換ん、い術は、直相馬の門が引ひる、ふふ、一、一、一、
七分身の法とて、あぐり、汝等、杜術を、ひふ、二人の身七人と
る、言、兒力、用、少、も、か、で、延壽丸、た、い、无、双、の、勇、あ
る、も、汝、あ、人、十、人、と、成、て、向、で、彼、討、み、ん、と、必、定、さ、り、と
咒、文、は、使、と、換、え、ま、い、あ、將、い、太、ふ、な、び、り、る、奇、術、と、ひ、る、上、に、延
壽丸と討んと、も、程、あ、り、進、付、者、た、右、と、奏、す、と、加
勢、の、匠、熱、五、千、餘、騎、と、引、連、き、勇、進、ん、で、汝、等、を、殺、す
延壽丸、い、汝、等、先、進、て、也、八、圍、ふ、り、國、王、小、陽、て、后、部

下の精を一千余騎と、一、と、(國)の中、通、り、小、陸、と、ま、
あ、賊、お、と、陣、の、通、道、と、主、切、り、大、い、軍、威、と、増、え、結、毒
難、治、彌、爛、下、悔、の、あ、城、の、侍、役、け、る、る、る、れ、ば、上、ト、一、時、は
味、ト、合、せ、進、ま、と、す、と、二、千、余、騎、で、隊、伍、と、ま、さ、り、
軍、軍、の、陣、前、小、推、し、あ、せ、一、度、は、周、と、ど、と、と、中、あ、あ、城
將、陣、あ、小、身、討、れ、一、案、お、延、壽丸、い、づ、ふ、あ、る、對、面、せ、ん、と
は、る、内、延、壽丸、も、同、ト、陣、ひ、小、馬、と、ま、め、あ、こ、を、消、毒
延、壽丸、り、魚、賊、等、あ、ま、小、見、ん、と、形、の、定、り、て、降、参、と
呈、じ、者、る、と、ん、と、ま、い、あ、賊、お、い、牙、と、嚙、で、大、い、小、怒、り、延、壽
丸、匹、夫、已、小、あ、り、親、と、殺、し、あ、あ、と、斬、果、す、る、と、今、日、は
あ、推、お、る、い、ま、る、と、汝、と、擒、ち、て、其、肉、と、喰、ん、と、決、

早く完功の覚悟とせよと罵られ延壽丸は口を閉じて大
笑し汝等の貪婪不償の悪賊人情の知るまじと罵り小
家と以て親の敵と一命と持ておふ向ひ大言とせよとの
まかりし言ふ不使る言ふ汝等もおふ守と涙し金
と陰とむ移りて突くるお城おもうけ合せ結毒種痘
月刀と揮ひ踊下麻の太刀と包と切結ぶお軍へお
て戦ひるが延壽丸は勇将又突き下れ敵軍を敗れ
殺しる新は結毒種痘下麻の太刀と包と切結ぶお軍へお
小多き彼る言ひ受くる兒女と唱まば懐くびへお人乃飛
着くおれて七人おふ左右十人お城お一掃のおまじ
お小太刀とやり延壽丸と討て親の仇と後せよと安くか

おつて西より打てくる延壽丸は度もせぬ陰と捨て剣と抜
たのお小太刀と揮ひ大雷神の荒るおと十人お相お小
太刀おるて戦ひるが包と切結ぶお軍へお
とて涙おる右は切て落しおるお人おふおるて自若
より一時おるおの戦ひお小多きおの延壽丸も氣力おまじ
引よりおるおのてけ魔術と拵くべと速と料して馬と逃し
門よりけお小軍卒も跡おつひてお入る敵軍へ勝お棄り
おりて退きお付へおせんとおひやくと延壽丸お知て鉄炮
響と雨のおとくおお出せば敵軍面を向ておやうく今お
おでるおと兵とまじおわし退いて陣ととれお延壽丸も
口門ととく閉とせおと分ておおとより終るお致て眠らる



けつぎふんち



まんもろん

病賊を身の
術をいふ
延壽丸を
やぶる図

徽軍の夜の明とて待ておせ来るまゝ大いなる者と撰出て都々
小宮を屏め又馬より下りて赤裸なるる居眠るまゝとて
欺さるる延壽九の岡へ怒るといふも力とて戦ひがたとて
まゝ只うく守りてお合ひ使と馳て淳事と移いと求むけ
時淳連の万吉國令く平定したるをて急ぎおまゐるとお
りふと延壽九が早お来る軍の次中と後進しけまゝ心
大小器をたふく救ずんばあやまちぬと万吉國王といふを
若げ法勢と率して矢のおとく小馳来る王は着て國
王小見へ軍の極子國中の安否と問へ國王は再拝して其
方と附し是日延壽九徽軍と戦ひ勝つた御小惱され陣は
迹へて再びお微賊いこれと悔し目々推あて戦ひといふと

頭項と中腹初とせ鼻梁山と據り穿ら陰道の血因つ
堪らぬ幼姑小信すれは果とて下の居依しは若しとて
釋するがごとくを生きて中々妙計とてしと救ひむと涙と共
おげさるる厚直いそとて國王といふと嘆きおまゐる果
向ふよと所は城徒と流すべしとをより来るおまゐると勢
と引連と延壽九が陣おまり合戦の有さぬと問ひ定て後
微勅教とてお中一汝とて万吉國小をりて延壽九と先陣
と争ひしとる果とて知と守り彼國小て延壽九小功を
法より萬國小をりて汝とて汝とて討とるおと馳向て
軍功とあつるべし但し延壽九は汝とて先王様より引きて
休息せよおまゐるも旗指ぬ其後中て汝が戦ふ様よりせ

おと激勅殿の竊小用道と申す不意小起りて城の本軍と
却一挙小敵とすべしとて激勅殿の兵を率
て欣然とて出まり延壽丸の王城に引寄せ置きの結毒難治
懾愕下麻の延壽丸が望みありておとと侮り輕下目と
来つて戦ひと櫓を此日も早夫より陣前小推寄せ種々小
急にして兼軍と想へせおびと出さんとす時は兼軍の陣
門と開け延壽丸が下の小將數十騎とて別と出ぬ人を
指さて城迄今日已小死地に入里程益の難言とてわと
言れは支城おの冷笑ひ延壽丸が勇猛すら先日の合戦は
あつても兼軍の兵を陣中へ逐入て恥と想ひ是とあれ味方
急とておとと早と涙とて居るお小汝おとと小兼軍陣前
は

出で荒言とては殊勝なり今打ころの奴るれども其勇氣
小わんとて免へる人早く退いて延壽丸と出せよ今日と
その生捕て生るが其肝と割さし父の幽霊とあつんと
つ兼軍の兵と打て汝おの願を鬼と成りてわが兵と
初一層と翻とておとと早く首と洗う刀のあつと想
とどとあつて陣中へ入る門と鎖しるを難治下麻の
確よりて大お怒り兼軍の兵と戦ふと往び一時のたむれ
おすぞとておとと出けおととと忽ち分身の術とておと
形七人づかり兼軍と下知して四面よりおとと無二
无三小攻まる陣中へおとととあつていへるが時分は
炮撃とておとと切ておととと面をとおとととおととと進
と

足へけるふぞ二人の城おの氣といふらひがふるれ者どもうふ
持槍とおてがづつれて参入よとまふ進まづぐく下
知すれ諸軍をふれとて一討せどもおどもあしも屋戸
己小陣門とお破しんとするふ鼻梁山の方ふありて一乃の
香煙雲のおと起り一魁の軍馬をいせで城城追捕復讐
効敵と書る大旗と推し立て軍勢もあふ小城乃首を
捉魚城もあふ知らずや鼻梁山の平陣己小陥り城卒
そく首とふぐはあもね付せよといふおめられぬ城軍卒
大ふやどろと振うへて足もさうとらるる業を後とまふ
あふたる香煙城軍の陣をさすいなる城を煙氣ふ吹れて
眼をみ具とあ城が身身の術破れ十人の人馬中のあ城

とありけきば諸軍兵力と落し勢いふらけてれきこつ業
軍いかに力より陣門とお破し切えとそるへ面もあふ
切入まふあ城おの身身の術破れ前後の敵はつらうと
くも魂も身もさう馬小敵おつて近行ふ一人乃
大お混甲小身と固めも小百孫切玉の宝力とお振る
賊づくへさるや業軍は天皇の一員大敵効敵此討をとりて
汝お城侍とくくと雷おとくくおめり踏と棄てま塞がる
あ賊己小戦い疲れたる上煙氣ふあきて心解くも再
初も小向ふと勢いふけれも逃まぬあふ心とああ血力
と振うて左右より寄せ合せ二打三打戦ひるがいうる敵
効敵小向ふと忽宝力と捨てんじは段小成て失ふる城

ともい般にふり陰謀をこころと逆ねて微効散の逆信と
首と切り殺し知れ日己ふ言けき兵と收め陣をみて
疲る兵休む夜の明る候て陰謀山小推おせがと連て
攻る小敵軍己ふ大おと失ひ法令全うに軍陣細の兵
只一息小退落され一人も残らぬおれ一當陣全く落着
しけき賊軍と焼くとい居氏と按捺して気血と修理し
國勢と張所梅肉丸漂着が命と受けて三百修繕して死
事と元帥の命有り吾れ引き退る事と受けてなりて
かきつとすべと報ずれば微効散の軍と收めて攻め梅
肉丸へ張城の諸所は隠きつる兵駆出り河水とせりけ
小腸より大腸は流しつる兵城ははるく此水は陽を死し

肥門道より向て流き落しつる賊のぶと一々より梅肉丸と
滝門丸と名けて賊徒大小畏しける今この國中今々平治し
けき漂着の諸おと召集りて其功と賞ト別して微効
散の功勞第一なりと褒美し諸軍と共に凱旋す國王の
褒詞諸軍の恩賞皆餘國の例のぶじかくて漂着丸
後國の仕る事あらしく示して後服戎をて諸おととさぐ
次の國へぞ向ひける

一 兩雄連出究苦戰
將獨進鏖中敵

其次と金吾國といふけきへ収毒腫痛揚梅陰廣成のあ
賊お攻へる揚梅陰の大陽小塞と搦へる肢頭面背脇胸腹

小眷属と分て大小の機と致し疼痛して膿汁と成り便毒の付根小山のどに陳と張る其毒致後せば下の法に
飲痛止むとれる國中淫熱行つて或は熱を致熱し四
氏皆くも安んずるも試むとそと庸医の元帥は
膏藥並小消腫敗毒散を用いておと防ぎるが時を経て
寸初る紙信の分はは入る國勢漸く衰へん千淳重の
諸君と共に國小より國主小湯して國の初静と成り且法
と巡見しおつりや天王並は法入おと召集の軍機と示し合
先延壽丸は精兵三千余騎とあて先鋒と前防敗毒
散は一万余騎と付て後陣とほし徹軍小向て戦ひむあ徹
おいかくとおより頼成合せくさやれたるハ自在專門は攻

入るる應歴遺毒致く下れに其金の國小向ひたる法大
お智くまの勇とまの何ともあつぐよふあやうも延壽
丸徹効散小出合ふては皆もたまふにそく首領失ふはや
あつぐ智勇と以て彼小敵討せんい松も甲と投てるふ
るぶと一とざや徹毒ま見えて助力とそんと忽ち二汗の
雲と起しそ小常りて徹毒まの祈とまや梓渴と臭ふ
肯起と暢りれば徹毒ま打懸預汝等よくこそん付たう
あ小種くの妙術あれば汝もはあは技人あるがう延壽丸
効散小智勇容易の者うわび己小助八國は放て諸毒
難治燥燭下痺のあおあ修るる分身の体とて延壽丸を
悩せし小不意小徹効散は破らしてあ人共は命と預せり

施すに並べの術をい危うく人世及びふが大切の秘方と授る
間諜は心を用いて是を以てふべし一に術に延壽九散動が
事の能なる亦あつて一度量と施すことゝいふ事まで成させ
んとて疑ひほしと云ふにあつて折舞してほび雷も即其法と
夢い受飽まで記得して後敵毒まふ別も人件國小ゆりあり
軍軍遅しとゆるけり却て延壽九散荊防敗毒散は先
立く三千餘騎と引率し敵毒の陣門進く推させ彼とあ
らう國とゆる軍威と振ふ攻りる敵軍も國と合せ陣門と
罷いておとせ敵將楊梅庵廣成使毒腫満とるを並べ
陣門に進く詔く小敵名をありあふの業お見見系せんと
ゆいふ延壽九散いさうもあつて馬と蹴らうて鬼出で運城の

悪氣ホ天邪無化の延壽九散と知りたるり早く其下で
陣系せよと四よりむで敵將の大か怒り无益の言とせん
先んずるがふ並とらんよと刀鎗と舞して懸ひりまふ延壽
九も陰を連し入連うけ人客火氣とらうて戦ふ内は双方
の軍も先くとみ合せ陣を先達と切結ぶ賄ひ延壽
九は突えらるるも危く刃へらるが忽ち分身の術を
楊梅庵廣成が飛渡して百八人となり延壽九とて争ふ
元世に四方八面より切てりる延壽九も一世の大才と云
とあつて身成跳すこと悪のぶく此小あつては彼を隠し雷
と振ふて戦へば敵将も容易に延壽九と付て能はず延壽九
も圍と出ると戦はず後陣の荊防敗毒散は賄ひ小倉とあ



い合まへに治癒九にて傾き一と率て出まへり此處
合戦は戦後廣督風の術で行ひ熱風國中は火後國氏
熱氣小候され苦しころが涼直が消廣風の法にて熱を
とち其苦悩いむとくも眼門の色彼熱風は打ちと
より血散れして腫痛を致し眼門には寒がらんとい
涼を致して是は眼湯を命トせと救へしは涼
眼湯は眼門に張向い某水にて血の散れは治り腫痛と
茲ト督付の同功致奏し眼門の腫を全く平治しるは
敵軍の音の聞へし延壽九散初散ホと一散は打破せられ
今い某軍の方ふはまづ者いあぐらぐらとぶせ方より遂
奇して某軍と相渡さんと評議するも一人の小城馳来り

某物見えてはる某軍の方より一もの軍勢敵賊追討は治
癒九と書ける旗と立て柵外に來りて陣をみ候ふ
竊に思ひ入る其極ふと窺ふに門乃國めあるれども
陣中い甚どゆめの作て将率打奇し酒宴と催ふ中
央より大なる治癒九と賞し一散打して机に侍り諸軍願
て今度の合戦敵軍甚どはよく名ふあは延壽九散初
散も一散は打負うるなり某軍と交討の令より止と
はど向ふといども延壽九散初散す切替の法は
我軍力にていづる彼は可ふらんや所詮明日の合戦は
必定討死と考あつたり仍て今宵は家那の酒宴とある
は量とるして飽まで不飲も今生の名残とるすべし

いづれ諸軍勢のつゞきも勇気ぬけ酒と飲ども色青なる軍中
何となく蕭然たる体小相見へ候と告げもいふあ城おのきまど打
て候び勇も此頃のおもくも勇名彼が恐怖するも置るる暇病
風のさめぬ内と申推考て敵散さんとあお一時小陣
軍兵と僅しき一敵に死す一軍陣とあるや否や閑と作
るこそ一妻洪水の漲るがごとく援連て切て入る苦もする陣
門と打破もいふ軍兵不意とおきて敵を斃んとする者なく
右住友は往く敵死す治癒九怒り叫び比其の者どもは擁護
うる路も止りて討死せよと云ふと援連て切て出で廣成腫腫小
つら合ひ大花とあて戦ひるる酒氣と帯るるあややお
ちか定まらぬあふ切るるれ時アトとやおのいふん初めの

言ふ似もやふ馬の頭と引に捨戦わて逆失るる廣成腫
満一戦は治癒九が陣所と奪ひるる意を揚ぐる中
陣に入て見る小肉酒雨死一杯盤狼藉とて所々小琴鼓
笙笛は並べたるそとに此所まで酒宴と催せしるる人あ
も量と用いて今更の労を慰めんと将卒一つ小あこぞり
元より元慚の者どももいふ言を辞儀の礼する酒肉と争
ひあつて飲るる酒なる蛇の舌とく喰ふといひ飢る猪の舌と
果は樂器と取とく或は飲ひ或は舞ひ一時の樂しきに百念
と忘れて有るがごとく人便毒腫満虎座とぞうと打ち
傷もはよりあつる隠れと死眼と見強てて働さるる皆く
大小器とぞと寄て介抱する内け者どもも又同振る振る腰

延城はと義と礼とて例も師と度成心付とてこそ欲の
計と臨むなるぞと金く酒肉の中小麻葉と和入たるあり
此をきて一人も助るべくぬ南面てありとも早く中陣へ逃
返すてさふ妻次弟小吉のつとて是も同く身を危
花とるて例もさう此に陣外一妻の疾炮むれ治癒
九炎と甲ふたる兵数千騎と將ひ突然とて出来り連城
の匹夫天孫の忍と受とゆり利刀と奉て例も伏しる敵城
と序端より切殺すは只これ板なるまて刈がむと皆くの内
敵軍の年数千人と屠るそ一妻賊の首と陰のさな
やうせ隊伍と整へてあつくと敵軍の中陣小押あせ楊梅
陰廣成使再腫液と治癒丸ぐもふお取さうり賊賊と逃

すると喰ひ連て攻りもむと陣小疎なる賊徒とて肝
と消し防ぎまんとする者更なるく何れあきてまざる所へ
業軍の士卒死二死と陣中よめ入る切伏せ突伏せま
田るふぞ血流きて病と漂り屍の横で立とるは其中国
氏の微賊の勢小畏と止るてはすはいる者此とれそく
降参し今に疎城一人もさう治癒丸は法軍とすむとて捕
周とよげ即刻陣ぐひて渡連が陣より来る軍の
ひ分とあがりあ城の首と突検又使れれば渡連は其四の
速あるとまどむつとて王城より國を小捕利と敵連
小決の屠圍へとおまを國王満辰今將くくの逗留と敵へ
も渡連は其代陣し諸軍勢と驅る僅ち一本然とてそ

出づるまゝ

大元帥計平賊軍
俱生神來報國

次小福松園とて勢力掃きける國ある一が此國ハ疥癩
様雁鴞念兼のあ城攻入る久し一國家と侵すことども
國王前落敗毒殺とて堅固は防戦する様は只は毒殺
ひのこやと内攻とて五勝乃に入ると結いず兵ふりて
敵毒まより加勢とて淋病と兼内下淋病のあをを
しられ様念兼大ふ喜びに抱おきて高嶺と空の淋病
内下淋のあお陰差門の小使及陣と張り小使は連派
と若ふさぐさふよりて國中水氣不利一河水膀胱小使位

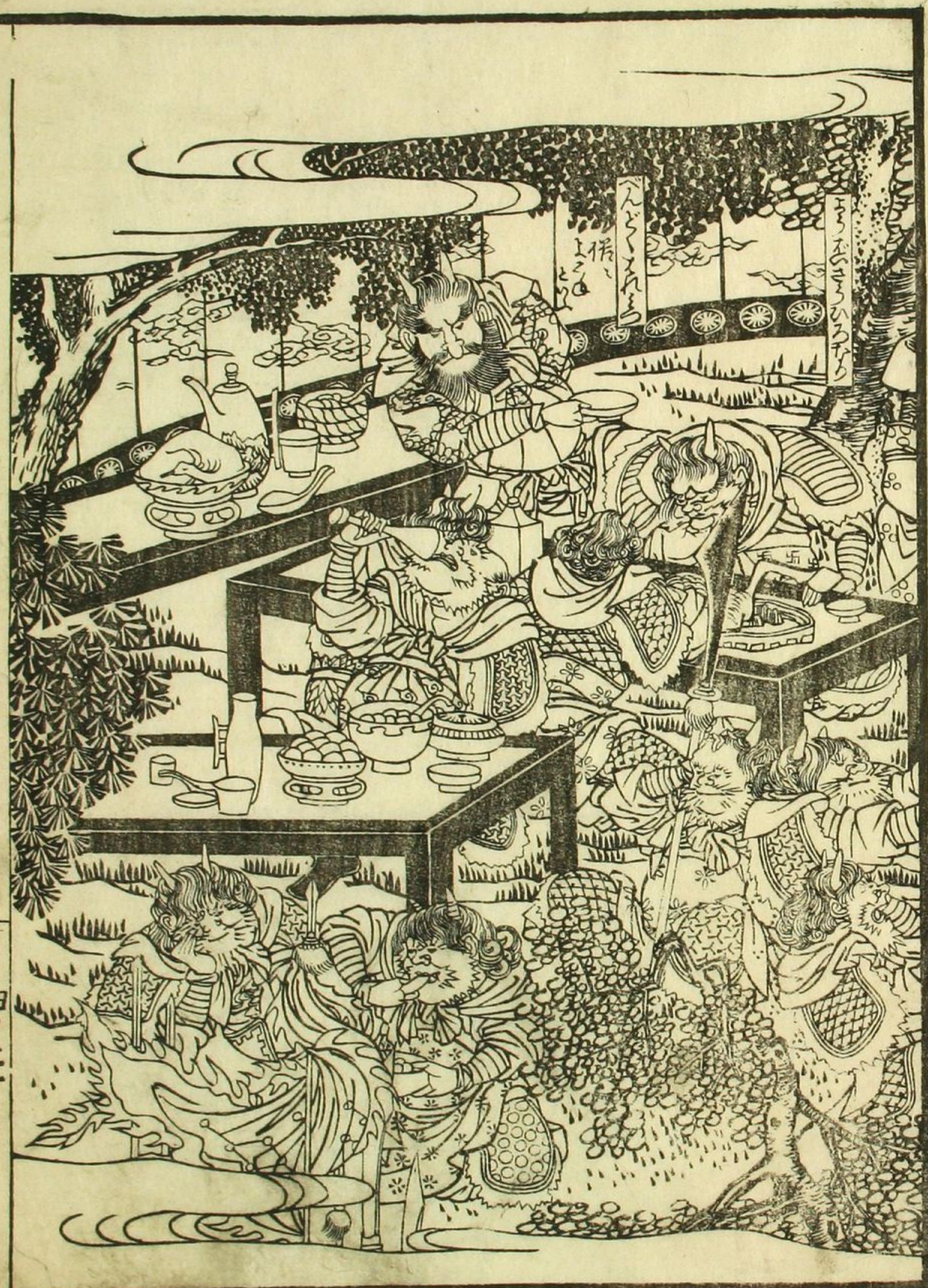
して熱生とて膿となり血毒前慈とて腫痛と殺し軍民
大苦しむるの國を討を運じ大妻湯と砂粒と加(食を
より向いせ膀胱小使位する水の濁水と新水城加(使利せ
やて小便道の賊陣と水攻ふして推流えんとすれども淋病内
下淋陣中小使樋と送りたへる水城少しづ振るが故小
曾て賊陣の害といふるの毒腫尿肝湯五淋殺其地種と
の業おとるいむれども何の功もるく水結益々淋秘して疼痛
殊はまどく一國を諸氏如何にもする上城攻ず苦惱月日
と送り一軍は度俱生并渡車攻迎(来る一國のあひ合
るふおる賊徒伏誅と指と屈して待居たり渡車ハ必入
てより城迄の結搦と委し一窟ひ初る先奇良湯小一万

み千余騎と抜けて内下麻淋病が陣に向を治療丸も軍
勢数千余騎と分つゝ雁行陣を敷きしむ奇良湯の令と
受て真に食たより勝敗はあり此所は陣とすゝ城軍と月
の下見えねる一諸軍小下知して新水とせたるを竊ふ
心とたるを幸と採ひ出射をさし食ある勢敵千人とたふ
何ともは扇と穿き水と浴で敵軍の陣前より周どろ
と巻まれ内下麻淋病同く陣門を開いて出てきて岸は
よんとする軍軍と退下げをたうして切たる其勢は烈く
して軍軍遂は負色より水面より引く敵軍は捕まら
水抜の座極と握る堤の上よりさく水との敵と打ちあふ
忽ち水音酒くと鳴り葉よげる堤のうへと敵軍はせそ

敵軍は太ふ勢ありこいそもいなる中とて罵り喝ぐ回もあ
堤へ一道の波とより滾々とて流るるを賊軍は深つ沈ん
濁浪は湯と述ある有る小川の魚の海はさく遊はあふ突
るゝ時ふ水座より數十の葉まわつてさくさく青良お
軍の令は受け響き水座を踏まはふが極へさる底極と
打ち抜き堤を破せむ時同は水座の崖肩とすんあふ
ん死とやとほるむぞ敵軍は後益勢ありさくさく流る
波と踏みて流るさうんとする小激浪太ふ腰より其勢は
既のどく敵軍の陣より行くも強さ推流せば敵軍は勢は
力腹も水は流して履踏するを軍軍はは履は棄る退後と
おころす内下麻淋病はさくさく小城の首領るればあふ

水とて分て兼軍小刻と令と持て切替ふ奇良湯のか
てとて分て兼軍小刻と令と持て切替ふ奇良湯のか
一が二人の賊お忍ら首るに屍とあり士卒の死體と兼
水はほつと流るるなりかて奇良湯の水の流るるを
沿岸と修理し水落とて人居住と接しと後援軍とは
ぐくまへ引向とて此れ治癒九軍勢と引率して道と
多と疥癬尸瘡が陣布とて軍國と仰り敵と唱とて勢ひ
と示せば敵陣より雁隊兼兼軍まで引くおてとて何れ
此所は兼軍と強敵とほしむ法軍と撃すやと中退る人
目とわかんせんと兼軍言ふ成りて四つあるは治癒九馬と進
向ふとて汝未知とすや近頃八國は於て敵軍の法援揚

梅瘡廣成候毒腫満と只一戦は討ちたる兼軍は天皇の任一
治癒九といふ事あり今元帥の令よりて此処は兼軍す
小馬次より旗と伏て降参せよと仰るは治癒九とて
怒氣満面は致しさて汝が治癒九なるうとて八國小於
て廣成腫満の兩人と殺したるは只是協の討を用いたるを
何ぞ汝が武勇とせんや兼今汝と一刀の下小殊代して兼の
幽魂と慰んと力と命と切てうる治癒九は陰とほとて
とらひ或は付へり兼おじとて秘傳とてそと兼軍もへ
まて時うつると戦ひたるが敵軍遂に退きまじは敗形と
那れ終くと兼とてつて此れは治癒九馬とて兼とて
と唱へ印と續べば知らば兼は熱風起り兼軍は北風はつて



治瘡九
奇計
病賊を
磨する
図

身体焼がどく候は腰痛してたぐく某軍将率面とぬ
づき掃もろく頭とてうへてうらた強ぐと敵軍のけうりやうと
一糸ふれつと返し敵とて切まぐとべ治癒丸の所詮可なりと
料とて馬引くせは諸軍もその付とて一戦とてありて
敵軍の長進せし証とてして引よるやど某軍の返り
また敵軍の治癒丸の厚重があらむと罪と謝しけり
い取て終りて慰諭して退し其後延壽丸とて中へ
御とて治癒丸とて極まり汝等向て速に退治せよと令され
延壽丸のまじり勇軍勢終りて中へ有勢とて引連れ
おとくうけ出し只今引よる敵軍の中へ面もあらば切て
堅横十文字とて廻らせば治癒丸の怒り増えとて敵の

ふるまひうみで塵にりて兵人と馬と抱へる小印と結びおと
行んとするやとて延壽丸の獲の袖より流星丸とてあら
城の面とてあらとておとあやまらば治癒丸の眉目
より顔より血煙りまじり馬とてあらとて延壽丸の
ば敵軍のいふとて速に退しけり
延壽丸一人も残らば延壽丸の治癒丸の首とてあら
敵軍とて収めて治癒丸の厚重があらむと罪と謝しけり
日の功名の二とて又付させらるる後浪重の荊落敗軍
撲業のあ將とて撲び出し各軍を救うとてあらとて
ちて治癒丸の陣とてあらとておとあやまらば治癒丸の
おと治癒丸の厚重があらむと罪と謝しけり

敗走すべし前落敗毒敵の食道より城下の搦手へ出て陣
介は井楼と組む其より士卒とよせ大勢と敵つて雨より
も勢より城下の敵は又大敗と引けて進むと洛をく渡り
井楼は又切き退くところ方はいつせん周章する内
とや陣は又火うつり火をく燃ゆるふど今いふとたうと
進むの門と推し家とあきもくと撲業が陣よりけ入る
思ふやど戦ひ花とるくく討死す大お構も乱軍の中切
死し城下の火よりく焼け失せ皮肉の諸を今く安寧に
引くれば又大お構と收めあつくと引くまうかくて渡
垂へ諸軍勢と共々國王小湯へ城下伏誅と奏とれむ
國王は再拝稽顙して是城下安寧と設けて容赦す渡

連も諸國の連徒今く誅伏しおろけき心喜び諸將と共
小酒宴し連徒献酬は樂しとをそし城下の方と慰め而
るるるから所より一叢の雲霧の春より中より牧多し人
おどりあぐ渡垂が敵は再拝するより人まじり自を漸
門國の俱生神並は疎し進る延壽丸が魔下の士卒た
かり渡垂は怪し河を俱生神の國境のちりるるをく
外に來るの何ゆへぞや又業をふの彼國はまうく城下不
慮と防ぐべきに俱生神とどのふ城はゆるい愈々く不慮あり
殊に各款然として慷慨の氣面はゆる案する所は國境を
憂むるあゝ人あくる細とおぐれよとまへ俱生神の進
むく城は賢案のぶく國王再び大外起り滅亡稍を待

ふと先其由来と申述んとすも元帥属國へ向ひまひ
衣園中益々平定しよ下元富し誘ひたる小安にあり
て危きと忘る智いあれば國主より由乃のんおこり業
を遠ざけてとくぐく用ひに稍逸系は似たり其
度より第て所せむる源應隆言徽毒まを討と合せ竊
小まの進食食慾貪色慾泥は厚く膝を屈し國主を
とすの毒食慾と勉しむたあ人元より慾限を
まへ一清は及ぶず是不同ト慶王と勉めて肉酒と玉肉へ
引へま女國と交通せんよと誘ふ是より國主も其稍
初より又一人の医國主其名と衣服美潔と云巧言
令色といふ眼耳門より入るは王の左右に在て媚溺ひ

食慾色慾と心と合せ諸の悪事とする大王誘ふとこの
旨医は能く彼が言試守りて久しく酒肉と絶ち女國を
あはれつるるもどかして國主の氣附して教ぜられ
の病と發する中此五事を用ひて國勢を復し舊業を教
て樂しむと流民と共に一むへを達し深連元帥とあり
城ととすといふも是れと深連が功はわづら國家の勢を
強さぐめは城徒逐ふてびたるなり彼延壽丸末のお率と
用ひあふ長久系余の討はあはる若くは城徒起のる
わづら系といふ元帥と一むへつるる強敵なりとも一戦は
討平ぐんと受合るり少くも悲いあはるべと偽毒は任
せく深と迷ひせば國主逐は其網にはい食慾色慾の友は

小令とて國中の法禁と鞭目と小酒肉と引入を数とて國と
交通す元より寄るるをあれは國をいそより政と收めど
日夜逸樂を耽りて食慾色慾時を以て權威とあり
政令と擅ふるほど小國中諸府諸道漸く礼と下民懲
して経絡調ひど氣血順るるの國勢再び衰廢の時と
應歴の激毒より兵とをひ受け又國中の愚民どもを
催し再び首筋を屯して旗と上げ再び國を奪ひて
唯天突缺の處のをもとて壘と結核の陣と張るに及
諸陣相通し其所禁を成ていそと致しと
同と穢膿臭水満る一に困まば一にむしれ其あて
愈るるより身体漸く羸瘦し飲食進まずに血汗を流

勞熱住来して咳嗽とせしと白痢とせしと大便自利と利と不
利とすといふ小便も其は不利とては腹は虚腫とせしと不危等
の症とをさるる是れ今も衣服臭が元帥とたりて六物解
毒湯とて大坂をさるる追討使とて膏藥とて一應應歴を
いふ或は難汁を胃風湯胃苓湯等の藥とを用ひて日を送
るが故に治癒す動るして病癒ふるある其の始は食慾
色慾が惡事と勅しとれより清淨な力とをすといふも
應歴おもはるる忠言用ひられざるのともなひ遂に漸く
遠ざけらるるを以て主人は退するることとせしと
内は卒に小國の滅と進づくを坐するてんるふは
竊るる君を不忠び入るる滅言とせしと利害と從と衣服

兵端と廢し再び淳生先生と用ひてと勅しつゝまゝに
わく信悟し然らば汝竊に屬國に馳りて淳生先生と付
ひゆるべしと内勅あり某はまより車を出さんとせし某は
小棄らまゝる某を國主の不過と憤り元帥の許はゆべし
とて某と共におでましとてこそ一所を某をゆふなり元
帥何年吾國の不信と怒り玉りて玉を怒りて怒りて國を再
度の危難と救ひ玉ひるべしと國主某がまひのこふゆへ
一國庶民のまゝそく恩恵は治すべしと涙と共は涙は
そととて國主ととら一座の渚人愕然とること良久
何事も言とおす者も淳生先生と沈吟し今旦の
言とこそは貴國再度の病其症已は必死なりしを

も國主某が言とおすべしと某は然とたるとなり
新しとて自業自得いふ人もすべし然れども國主今も
罪を悔み休の心より某が軍略とそく殊に天下のまゝ
元帥の恵は自ら某との情はわづらひしと解きさげさ
そよりふとび貴國は難くべしと某は向ひたりとも
治す處をや否やいかにふ其有難く心はまゝとふ
俱生神の拝ありと某は不肖の某と懺悔しなまひ再
入國し玉りて大慶を益するはたとい治術功なり
滅亡ふ及ぶとも先生の指揮はたはわづらひ國中し本
より御許容の上の一刻もとやとおさ玉りと急がせ
國の君民もともぐお言とそとて某はもふ淳生先生

掌しやうしあうしやうぶぶ垂たまままま出でんとと諸しよ業ぎやうおおととるるはは人にん用よう意いと
調てうへへくく國こく王わう諸しよ后ご不ふ別べつととをを給く俱く生しやう作さくとと是こははままままままととるる
雲うんははおお糸いとりりてて飛とぶぶおおくく不ふ飛とせせままままりり

藏ざう瘡さう軍ぐん諫ざん四し之の卷くわん終おわり

